



誰もが安心できる避難所へ

～避難所運営に女性の視点を～

毎年9月1日は防災の日です。

今年も全国各地で大雨や地震による大規模な被害が発生しています。名寄市でも大雨や地震が発生しており、自然災害による「緊急事態」は他人事ではありません。

緊急事態に対処できるよう、日ごろから防災について意識しておきましょう。

国では「第5次男女共同参画基本計画」において、防災の分野で「女性の視点」を取り入れるなど男女共同参画を推進しています。名寄市でも避難所マニュアルにおいて、女性に配慮した避難所運営に努めていますので、そのポイントについてご紹介します。

- 避難所の運営委員会には男女両方の委員を配置
- 安心して利用できる、プライバシーに配慮した授乳室や更衣室の設置
- 必要に応じた女性専用コミュニティスペースや女性専用居住スペースの設置
- 女性特有の物資(下着、生理用品)の確保と女性による配布
- トイレ、仮設風呂付近での性犯罪発生防止対策
- 高齢者、障がい者、妊産婦、乳幼児、病弱者、外国人、女性、子ども、性的マイノリティなど、多様なニーズに配慮した避難所運営など



問い合わせ・提出先

環境生活課男女共同参画担当(名寄庁舎1階)

☎01654③2111(内線3126)

✉ny-seikatsu1@city.nayoro.lg.jp

今後、防災以外の分野でも国の基本計画に基づいた男女共同参画を推進していきます。

COLUMN*

|VOL.59|

なよろっぽい家づくりの会



省エネルギーについて

前回までは「再生可能エネルギー」つまり自然エネルギーについてお伝えしてきましたが、今回からは省エネ住宅について触れていきたいと思えます。

人間はエネルギーが無いと生きてはいけない動物であり、人間社会を形成し生活するため、エネルギーを消費する設備を作ります。エネルギー消費すると、その分に応じて二酸化炭素が排出され、排出量が多ければ多いほど環境破壊に繋がります。それは大気中に二酸化炭素が増えると、地上から出る熱を二酸化炭素が吸収し、ビニールハウスのビニールの役目をしてしまいます。これが温室効果と言われるもので、さらに濃度が高まると地球温暖化を悪化させます。そもそも、空気中にはいろいろな気体が混在します。その割合は窒素が78%程度、酸素21%、アルゴン0.93%、二酸化炭素0.03%、他にはメタン・ヘリウムなどのガスや水蒸気となり、数字だけ見れば二酸化炭素の量は少なく見えますが、この数十年で0.01%上昇し0.04%となっています。また、二酸化炭素の排出量が多い国は中国が最多で、4年程前の数値で95.7億t/年、二番目にアメリカが49.2億t/年、インド、ロシアと続いて五番目に日本の10.8億t/年、そしてドイツ、韓国、イ

ラン、カナダ5.7億t/年となっています。日本では家庭からの排出量が国全体の15%程度あり、その割合は比較的多く、つまりは優雅な暮らしの結果です。夏期は電気利用のエアコンでより涼しく、車の中は駐車中も冷気を保つためエンジンを掛けたまま、冬期は化石燃料を燃やし家の中を暖かく、車に至っては暖まるまで暖機運転。これでは脱炭素の世の中は作れません。そこで現在では、夏期の冷房設定温度を従来より高く、冬期の暖房設定温度を従来より低い室温に設定する事を奨励しており、職場や家庭でも服装で温度調整するのが一般的に普及してきたところです。また、その事が建物を建築する際の法律改正に至って、住宅においても省エネルギーで過ごせる事、無駄なエネルギーを使わない事を目的に建築資材の基準を厳しく、施工方法・技術の導入、それぞれの地域に見合った基準を混じえての改正がありました。今回はこの地域の省エネポイントのメリット・デメリットなどについてお話し致します。

■問い合わせ なよろっぽい家づくりの会事務局
(NPO法人なよろ観光まちづくり協会内)
☎01654⑨6711